

第〇学年国語科学習指導案

右寄せ UD デジタル NP-R 10.5P

授業学級 宮崎市立〇〇中学校

〇年〇組 授業者 〇〇 〇〇

見出しは全て UD デジタル NP-R 10.5P

1 単元・題材 真実を語る「調べたことを正確に伝えよう レポートにまとめる」

2 目標

目標は、3つ設定する。

身につけさせたい力が明らかになるようにし、全て生徒の立場で記述。

- 音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して古典の世界に親しむことができる。【知識・技能】
- 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

3 本単元における言語活動 関連：【目標と領域名を記入】

- 『竹取物語』を読んで、千年の時を経ても変わらない人間の心について考えたことを伝え合う。【関連：【思考力、判断力、表現力等】C 読むこと（2）イ】

4 本単元における評価規準

規準は、3つ設定する。

目標と対応した評価が明らかになるようにし、全て生徒の立場で記述。

- 音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して古典の世界に親しんでいる。【知識・技能】
- 「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。【思考・判断・表現】
- 積極的に古典の世界に親しみ、学習の見通しをもって自分の考えを伝えようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

5 指導観

- 国際化社会を生きる日本人には、文化と伝統を大切にする態度が求められ、理解を深めるようにすることも必要な指導の充実を図る必要がある。

「2 目標」の【思考力、判断力、表現力等】は、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて捉えている。また、【知識及び技能】は、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。」【(3) 我が国の言語文化に関する事項(ア)】に対応している。

- 本教材は、翁が竹の中から女の冒険談、そして、かぐや姫昇天の「竹取物語」のおよその全体像をつかませ、音読を繰り返させることで、

- 本学級(32名)は、基礎学力があるが、グループ学習などでは

事前に実施した「古典学習に関するアンケート」には、「意味が分からない言葉が出てくるので難しそう」、「昔の話なのでおもしろくなさそう」、「覚えることがたくさんあって大変そう」というような不安が多く書かれていた。

- そこで、指導にあたっては、以下のような手立てをとることにする。

指導観には、「題材観」「生徒観」の記述内容を受けて、どのような手法でどのような力を生徒たちに身につけたいのかがわかるように記述する。

- ① その単元(題材)を通して、何(どのような力)を身につけさせたいのか、それをどのような手立てで身につけさせるのかを明記する。(手立てとして、重点的に取り組む言語活動についても記述する。)

- ② ①の内容に関して、生徒に見通しをもたせる場について指導観で触れる。

(「～工夫をする」「導入段階で～活動を取り入れる」等)

- ・本時に関わる部分については、少し詳しく記述する。
- ・「努力を要する」状況と判断される生徒への手立てを記述する。(明確で、具体的な手立てを1つ記述する。)

題材観には、授業を行うに当たって、世の中や生徒の現状と本教材の特色や学ぶことを通しての利点・価値を中心に、学習指導要領との関連を図りながら記述する。(指導要領との関連は、前半に記述を。)

生徒観には、これまでの授業の取組から国語全体に関する生徒の状況や本教材の領域に関する現状をデータ(過去のアンケートや小テスト結果の集約)などから明らかにし、どのような力をつけることが必要とされているかを記述する。

6 指導計画と評価計画 (全○時間)

主な学習活動及び学習内容 (ICTの活用)	時間	評価 【評価の観点】 (評価の方法)
1 『竹取物語』の冒頭部分を音読し、現代の文章と古典の文章の違いに気付き、古典特有のリズムを味わう。 ○ GoogleJamboard を使って、考えを可視化させる。	1 (本時)	・ 文語のきまりや古典特有のリズムについて理解することができているか。【知識・技能】(ワークシート・GoogleJamboard)
2 場面の展開や登場人物の心情などについて、描写を基に捉える。	2	・ 場面の展開や登場人物の心情などについて、描写を基に捉えることができているか。【思考・判断・表現】
3 千年以上たった今でも変わらない人間の心について考える。	1	・ 我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合

デジタルを活用した部分を
□で囲む。

1時間1目標の考え方から、もっとも生徒につけさせたい力に関する目標を、生徒の立場で1つ。(原則は1つであるが、内容や指導によって2つになることも可)
語尾は、「～できる」が望ましい。

7 本時の目標

- 正確にわかりやすく書くための工夫点を理解し、友人の意見を参考にして下書きを書き直すことができる。(書く能力)

8 学習指導過程

段 階	学習活動及び学習内容	指導上の留意点	評価 【評価の観点】(評価の方法)	資料及び準備
導 入	1 『竹取物語』について知る。 (一斉) ・ 現存する日本最古の物語 ・ 「物語の出で来はじめの祖」 2 本時の学習課題を確認する(一斉) 現代の文章と古典の文章にはどのような違いがあるだろうか?	○ はるか昔の文章を原文で読めるといふ期待感をもたせる。 ○ 教科書に線を引かせる。 ○ 本時の目標を明確に示し、本時の学習に見通しをもたせる。		スライド資料 複写紙
展 開	3 冒頭部分を音読する。 (一斉 → 個人 → 一斉) 4 原文と口語訳を交互に音読する。 (一斉 → 個人) 5 現代の文章と古典の文章の違いを考える。 (個人 → グループ → 一斉) <u>GoogleJamboard を使って考えを可視化させる。</u>	○ 音読させ、古語の意味を調べさせる。 ○ 通訳になったつもりで音読するように指示する。 ○ 称赞の言葉やアドバイスを与えたりして、自信をもって話し合いに参加できるようにする。 ○ Google Jamboardを活用させ、考えを可視化させる。		ワークシート
結 末	6 本時で学んだ「現代の文章と古典の文章の違い」をまとめる。 (個人)	○ 文語のきまりや古典特有のリズムについて理解することができているか。 ○ 文語の言葉を使って、現代の言葉の使い方と比較してまとめる。	【知識・技能】 (タブレット)	座席表

語尾「～する。」
活動を明確に。

授業で確認する学習用語を活用した語彙については二重四角で囲む

課題を意識させる内容にしたい。

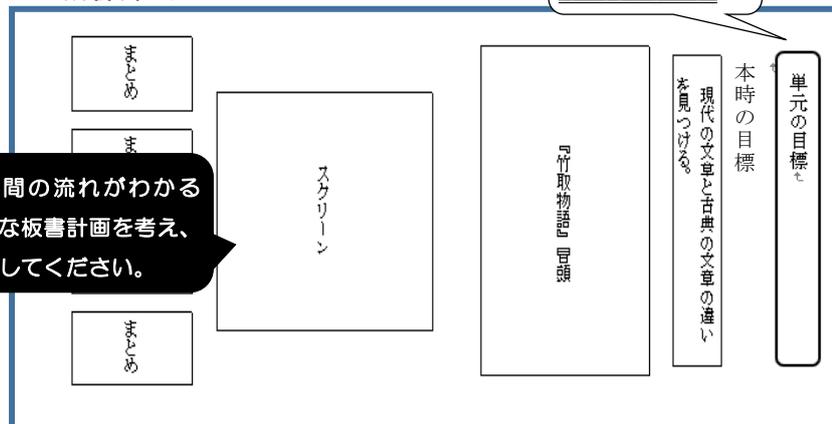
語尾「～ために、～する。」
「～を使って、～する。」
(教師の立場で書く)

「努力を要する」状況と判断される生徒に対する手立てについては、「指導上の留意点」の中に具体的に記入する。
語尾「～指導する。」「～指示する。」「～させる。」

デジタルを活用した部分に下部線を入れ記入する。

単元を通しての目標を掲示する。

9 板書計画



1時間の流れがわかるような板書計画を考え、記入してください。

《基本形》

- ① 字数 (45文字×45行を目安。)
- ② 余白 (上下左右ともに、20mmを目安。)
- ③ 字体 (見出しはMSゴシック・文章はMS明朝。)
- ④ ポイント (10.5Pを目安。)
- ⑤ ページ数 (4～5ページ)
- ⑥ カンマは「、」で。

※ 字数・余白・ポイントなど、上記の基準で収まらない場合もありえるので、極端にならない程度で調整をしよう。(小さい文字になっても可、ページ数は変えない。)

※ 漢字表記と平仮名表記など、表記上の相違点は校正の段階で統一する。